平成２９年度後期　自己評価書　（教職員）　（19名）

分野		評価項目	A	B	C	D	平均
学習指導	1	シラバスの内容が生徒の実態に即し活用されている。	5	12	2	0	3.2
	2	個々の生徒の学力を把握し、学習指導がなされている。	5	14	0	0	3.3
	3	生徒の家庭学習の習慣化に努めている。	3	11	3	2	2.8
	4	十分な教材研究のもとで授業がおこなわれている。	7	9	1	2	3.1
	5	授業アンケート・公開授業などを活用し、積極的に授業改善に努めている。	7	12	0	0	3.4
生指指導	6	教職員の共通理解のもと、共通実践が図られている。	4	14	1	0	3.2
	7	生徒の教育相談や悩み事に適切に対応し、問題の早期発見につとめている。	8	10	1	0	3.4
	8	身だしなみ等の基本的生活習慣の確立やマナー等の指導が徹底されている。	5	11	3	0	3.1
	9	生徒間の人間関係や言動を観察し、いじめの未然防止・早期発見に努めている。	7	12	0	0	3.4
	10	学校行事や生徒会活動の活性化に努め、生徒が主体的に参加できるよう指導している。	7	12	0	0	3.4
	11	生徒指導に関して保護者・地域・関係機関との連携が十分に図られている。	3	11	5	0	2.9
進路指導	12	3年間を見通した進路計画のもと、キャリア教育の充実が図られている。	5	12	2	0	3.2
	13	進路情報を適切に発信し、保護者と十分連携をとった進路指導を推進している。	7	8	4	0	3.2
健康安全指導	14	生徒の健康・安全及び事故防止のための指導がなされているか	6	13	0	0	3.3
	15	施設や設備の安全点検に努め、故障や破損に対して迅速に対応している。	7	10	2	0	3.3
	16	危機管理マニュアルを参考にして、生徒に適切な対応が行われている。	4	13	2	0	3.1
学組織運営	17	校務分掌で適材適所の人員配置がなされている。	2	7	8	2	2.5
	18	教職員間での情報の共有化が図られている	5	11	2	1	3.1
	19	コンプライアンスに基づき、望ましい人間関係が構築され、活力ある職場となっている。	5	9	4	1	2.9
	20	学年・学級経営方針が学年団で共通理解され、協働体制が確立している。	12	7	0	0	3.6
	21	家庭との連絡や相互理解が図られ、家庭との協力態勢が得られている。	6	10	3	0	3.2
研修	22	個人研修や校内の組織研究が自主的・意欲的に行われている。	4	10	3	2	2.8
	23	校内外の研修の成果が、全職員に共有され、教育活動全般に還元されている。	6	12	1	0	3.3
保護者、地域住民との連携	24	保護者や地域への積極的な情報提供に努め、保護者の意向や要望を学校運営に反映している。	4	12	3	0	3.1
	25	公開授業や学校行事等に多くの保護者が来校している。	2	8	6	3	2.5
環境	26	担当する管理区域の点検および整理整頓がなされている。	5	12	2	0	3.2
その他	27	学校便りやHPの更新により、PTAや同窓会・地域の関係機関へ情報の発信に努めている。	12	7	0	0	3.6
	28	前例踏襲にこだわらず、協働体制のもと、生徒・保護者・地域の信頼と期待に応えるべく、教育活動を展開している。	4	12	3	0	3.1
生徒の変容	29	生徒はマナーや身だしなみに対し、高い意識をもつことができるようになった。	4	11	4	0	3.0
	30	生徒は自己の生き方・在り方について考えることができるようになった。	3	9	7	0	2.8
	31	生徒は職業観・勤労観をもつことができるようになった。	4	8	7	0	2.8
	32	生徒は進路希望の実現に向けて頑張ることができるようになった。	4	13	2	0	3.1
	33	生徒は薬物についての理解を深め、乱用の防止ができている。	14	5	0	0	3.7
	34	生徒は生命の尊厳や人権について考えて行動できるようになっている。	5	13	1	0	3.2
	35	生徒は正しい性の知識に基づいて健全な生活ができている。	2	17	0	0	3.1
		A良い　＞　D悪い　　A=4 B=3 C=2 D=1					3.1